

# 漢文句法「部分否定・全部否定」確認テスト | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 ①「不常得」＝部分否定（不＋常で「いつも～とは限らない」）／②「常不憂」＝全部否定（常＋不で「いつも～ない」）。否定語が上＝部分、副詞が上＝全部。

問2 ①は否定語「不」が副詞「常」の上であり「常ニハ～ず（いつも～とは限らない）」の部分否定。②は副詞「常」が否定語「不」の上であり「常ニ～ず（いつも～ない）」の全部否定。否定語と「常」の上下が入れ替わることで意味が反転する。

問3 ①「不常得」＝つねにはえ（ず）／③「不必有」＝かならずしもあら（ず）。

問4 「彼はいつも家にいるとは限らない」→ 彼不常在家。／「彼はいつも家にはいない」→ 彼常不在家。

問5 （家が貧しくて）いつも油を手に入れられるとは限らない（手に入らないこともある）。

問6 ③「不必有」＝部分否定（必ずしも～とは限らない）／④「必不讓」＝全部否定（きっと～しない）。

問7 「不必有徳」＝富貴であっても必ずしも徳があるとは限らない（徳のない場合もある）。「必不讓」＝（小人は）きっと（決して）譲ろうとしない。前者は一部例外を認める部分否定、後者は例外なく否定する全部否定。

問8 「必ずしも幸福とは限らない」→ 富者不必幸。／「きっと反省しない」→ 悪人必不悔。

問9 訳：賢い人でも、千回考えれば必ず一つは失敗がある（どんな賢者にも誤りはある）。判断：これは全部否定・部分否定の対象外で、否定語を伴わない肯定の「必有（必ず～がある）」。「不必（部分否定）」とは異なり、否定語がないため「必ず～がある」と完全肯定で読む点に注意。

問10 ⑥「未必」＝部分否定（必ずしも～とは限らない）／⑪「不必」＝部分否定（必ずしも皆が～というわけではない）。いずれも否定語が「必」の上にある形。

問11 ⑥「未必」＝いまだかならずしも／⑨「不俱」＝ともには。

問12 よく効く薬も、必ずしも口に苦いとは限らない。

問13 ⑦「不尽富」＝部分否定（すべてが～とは限らない）／⑧「尽不為」＝全部否定（ことごとく～しない＝一人残らずしない）。

問14 賢い人でも、すべてが（みな一様に）金持ちであるとは限らない。

問15 ⑨「不俱得」＝部分否定（両方そろっては得られない＝どちらか一方しか得られない）／⑩「俱不欺」＝全部否定（みな一様に～しない）。

問16 二つのものは、両方そろっては手に入れられない（どちらか一方しか得られない）。

問17 訳：年老いた者はいつも昔（のこと）を忘れない。理由：副詞「常」が否定語「不」の上にある「常＋不」の語順なので、部分否定ではなく全部否定（いつも～ない）になるから。

問18 ③ 富貴ナレドモ必ズシモ徳有ラズ。

問19 ⑥ 良薬モ未ダ必ズシモ口ニ苦カラズ。

問20 ⑨ 二者ハ俱ニハ得ズ。

問21 否定語が副詞の上に来れば部分否定、副詞が否定語の上に来れば全部否定になる（=否定語と副詞の上下の語順で決まる）。